

令和 7年度 園評価書

園番号 9 園名 長沼こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かな たくましい子	自分で感じる	○園児は好きな遊びを見つけたり、遊びの続きをしたりして自ら遊び出している	遊び出し環境の準備を継続して行ってきたことや外遊びのどときスペースを子どもたちの通る動線に置いたことで遊び出しや続きを自ら楽しんでいった。一年を通して園庭に自由に使うことのできる草花があったことがとても魅力であった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達ベースのことが職員間でよく共有できている(育ちの広がり、遊びの広がり)</li> <li>高め合おうとしているし、ベテランから若手に引き継がれているのが良い</li> <li>ドキュメンテーション、個人面談 公開保育等色々やっていることは発信が重要な視点となる。→今年度は各学年の劇場ごっこで保護者に園の教育・保育活動の取り組みを発信できた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どとき棚の使い方、とっておき方の工夫等により、もっと続きを楽しめるのではないかな</li> <li>子どもが遊びに使うことのできる季節ごとの自然物を継続して園庭に置いていく</li> <li>好きな遊びや興味をもち繰り返し楽しんでる遊びをより楽しんでいくために保育者も遊びの一員となり、“面白い”“楽しい”の共有をしていく。子どもがもっとやってみようと思えそうなことを予想し環境の準備をしていく</li> </ul>
	自分で考える	○園児は自分の思いや気づいたことを自分なりの言葉や態度、仕草などで表現している	保育者にうれしさや面白さを共感してもらったり、泣いたり怒ったりする表現を受け止めてもらえる安心感のとも思いを表出している。幼児は遊びの中で伝えたことを自分なりの言葉で表現し、低年齢の子も片言の言葉で知らせようとする言が出てきている	A	A		
	自分で知る	○園児は遊びの中で発見を楽しみ、考えたり工夫してみようとしている	同じ遊びを繰り返す中で、発見や気づきを保育者や友達に認めてもらったり、子どもが試していることに保育者が結果や答えを安易に言わず、意図的に見守ることで子どもが考えたり工夫したりする姿に繋がっている	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	保育教諭は子どもの育ちの繋がりを意識し、いろいろな人・もの・自然とかかわることができるよう教育・保育を行っている	0歳から6歳までの育ちの繋がりを意識し遊びや様々な経験をしていく中でそれぞれの年齢で、人・もの・自然等との出会わせ方、大切にしたいこと等が違ふということを職員間で共通理解していった。それぞれの学年で大切にしたい育ちを園内研修で具体的に考えた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>わんぱく遊び後の小さいクラスのわんぱく遊びごっこ(リレー、パルーン)が子どもが主体で始まり、そこには保育者の意図やねらいもあるのを知った。そういった形で楽しみ、受け継がれていくだとわかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員全体で“長沼こども園の子ども”の実態、育ちを大切に教育・保育することの意思統一をしていく</li> <li>“わんぱく遊び”“劇場ごっこ”にしている意図を職員間で再確認していく</li> <li>子どもがいつもと違う様子であったり、何らかのサインを出したりしている際、あらわれや行動そのものに捉われず、対象児を取り巻く背景等も考慮し配慮していく</li> </ul>
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	保育教諭は一人ひとりの気持ちを温かく受け止め、健康状態や生活リズムに配慮しながら、安心して園生活が送れるようにしている	一年を通し保護者と口頭、コドモンでの連携を大切にしたい。乳児組のイヤイヤ期などの発達段階の理解をしたり、家庭の状況の変化等で子どもがサインを出したときに見逃さず受け止め配慮したりしていった。年長組は午睡終了後、休息をとる等配慮していった	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	保育教諭は子どもたちが遊びの中で考えたり工夫したりすることができるような手立てを考え実践している	季節に合った自然物や子ども自身が想像して作ったり形を変化させたりして遊べる廃材や素材を常に使えるよう準備している。また保育者の意図的に見守る関わりやヒントを伝えたり一緒に考えたりすることも、子どもたちの考えたり工夫したりする力に繋がっている	B	B		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園児、職員は命を守るための安全意識を高めるために様々な状況を想定した避難訓練を重ねている	大地震・火災・不審者訓練等子ども、保育者も実際に起きた際命を守るためにどうしたら良いかを意識し行えるようになってきた。科学技術高校までの避難の際は危険箇所を声に出し確認し、写真を撮り園内でも再確認していった。振り返りを行い実際に備えている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊び込むためには環境の準備の大切さがよくわかった。遊びが繋がっていくという希望だと感じる。このように保育してくれている長沼こども園を皆に自信をもって勧めたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭環境については職員間でよく話し合い決めていったが室内環境については課題が残る</li> <li>遅番、早番で使用する保育室の設定の難しさ、クラスの子の物にとって置き方等課題である</li> </ul>
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は食育活動を通して子どもたちの食への関心を深めたり基本的な生活習慣、衛生習慣が身につくよう発達に合わせた指導をしている	食育活動が定着している。10月にお米屋さんより来作り、収穫するまでの過程をプロジェクターを用い写真や映像でわかりやすく学んだ。千代田小学校養護教諭に、手洗いの仕方・大切さについて小学校の手洗い環境を見せてもらいながら学んだ	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培を行う際の土の準備や後始末までクラスで責任をもち、行う</li> <li>戸外遊び後の手洗い・うがいなどの生活習慣は各年齢でどこまで行うか職員間で再確認していく</li> </ul>	
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は個々の発達を職員間で共有し、理解し合いながら、一人ひとりに合った丁寧な関わりを行っている	後半も保護者との面談のもと、サポートプラン作成及び実践をしていった。支援児のみで定期的に行ったスマイルの会では、年長組の子どもがリーダー的存在になったり、一人ひとりが得意なことを発揮できる場になったり、少人数保育のメリットがあった	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援児が早番・遅番にかかる際の関わり方の共有、支援グッズの準備等を担任と連携をとり、行っていく必要がある</li> <li>支援児のみで行うスマイルの会の継続は検討する</li> </ul>	
5 組織運営	(1)組織体制の充実	保育教諭は子どもの姿を語り合い、発達をおさえた子どもへの関わりを共有し、共通理解しながら実践に繋がっている	クラス担任同士は日々子どもの姿を共有し合っている。幼児組は幼児会議、乳児組は乳児会議でそれぞれのクラスの子どもの具体的な姿、関わり方を共有している	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもや保護者との信頼関係構築と同様に職員同士もコミュニケーションをとり信頼関係を構築する。困難な際共に考えたり意見を出し合えたりできる関係性をもてる良い</li> </ul>	
6 研修	(1)研修体制の充実	保育教諭は日々の実践や公開保育を園内研修にて振り返り、研修テーマや重点目標の実現に努めている	週案・月案にマーカーでラインを引くことによりその週・月に意識し見ていく子どもの姿や遊び、準備していく環境とどの職員も意識するようになった。公開保育の事後研修を行う中で一年を通して目標としている重点目標や研修テーマの実現の検証を行っている	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生達の朝の環境作りから子どもの遊び出しの良さに繋がっていると感じる</li> </ul>	
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園はヒヤリハットやケガが起きた際検証及び周知し、安心・安全な園庭、室内環境作りに繋がっている	ヒヤリハット、ケガの報告・周知はその日のうちに1次に行い2次に対応している。北門から園に向かうスロープに反射板つきの三角コーン5個と表示、北門にクッションマットを付けた。危険なことがあった際は子ども、保護者にも話している	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員もヒヤリ、ハッとした時にすぐ記入する習慣をつける。引き続き昼の打ち合わせで報告・周知していく</li> <li>ケガが多かった北門からのスロープ次年度改善予定</li> </ul>	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は口頭やドキュメンテーション等を活用し、子どもの遊びの具体的な様子や育ちを情報発信し、保護者との信頼関係の構築・継続に努めている	一年の中で各家庭1回保育参加会、個人面談を行った。子どもと一緒に遊ぶ中で成長を実感してもらったり、面談で現在までの育ちの確認と今後の見通しを共有したりしていった。保護者からの質問や要求には丁寧に対応し信頼関係の継続に努めている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が子も他の子どもさんも本当に優しい子に育ててもらい、こども園のおかげと感謝しかない。先生達の向上心が高いので今後も変わらず頑張ってもらいたい</li> </ul>	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	園は公開保育を教育・保育を学び合う機会とし、近隣園・小・中・高との交流を継続し、連携を深めていく	後半の土土交流は“長沼で遊ぼう会”や“劇遊び見せ合い”を行った。集団ゲームを一緒に交流を深めたり、楽しんできた劇遊びを親しみをもって見合ったりした	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>2歳児の連携園(3園)との交流を年間計画の中に組み込み、計画的に慣れる機会を作っていく</li> <li>土土交流は継続実施。雨天時もフェイスタイムでの交流等新たに実施できた方法で交流していく</li> </ul>	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は地域の様々な人との交流を通して、地域に親しみをもったり、地域とつながる園づくりを進めている	北門前の菩提樹院で銀杏の葉や秋の実をたくさん拾わせてもらい園内で落ち葉プール、こらそう作りの飾り付け、押し葉等遊びに取り入れていった。ルネサンスアカデミーで動物との触れ合い、護国神社で絵馬づくり、園内にてし縄作り等地域の施設利用や地域の方との触れ合いを大切にしていた	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続している地域交流に加え、新たに繋がった地域の方との交流を大切にしている</li> </ul>	